

技術開発に思うこと

「商品開発期間と技術の複合化」

常務取締役 松本 良一



当社のミニラボシステムNPSを発売してから10年目、世界初の処理液の錠剤化技術「エコジェットシステム」を採用した画期的ミニラボ「フレンディージェット」を発売し世界的注目を集めている。10年前NPSも初めてカラー処理から水洗水を無くすという処理の技術を組合せ、ミニラボをボイラーや給排水管から開放し、各社の追従もあってミニラボの飛躍的發展に大きく寄与しました。

今回の「フレンディージェット」も処理液の錠剤化技術、スキャナー、モニター技術、又ACR-40という環境対応機器、新しいQA-A6ペーパー等、それらをまとめた素晴らしいデザイン等が組合せられ画期的なミニラボ商品となりました。

商品目標を設定してから2年半、その経過は紆余曲折がありました但し関係した技術者の完成目標に向けての努力の傾注と協力の賜物と思います。

写真感光材料ビジネスを考える時、処理機や他の画像処理システムを抜きでは考えられない時代になりました。フィルム、印画紙、薬品、いずれも一枚の写真(画像)に向けての材料です。それらの素材が機器を通じ、システムを通じ組合せられ完成し初めてお客様に喜んで戴けるカラープリントになります。単にフィルムが、印画紙が良ければすんだ時代ではなくなりました。此れからはスキャナーもエコジェットシステムも更に更に性能を向上させて行かなけれ

ばなりません。

最近の急激な技術の進歩と、それによる複合商品の開発を見る時その進歩のスピードの早さに驚きます。

過去10年間かゝって開発された商品は3年間で、3年間で開発された商品は1年の研究開発期間で完成させなければこのデジタル化時代の技術競争には勝てないと思います。消費者ニーズを敏感にキャッチし要望に答えられる商品を素早く開発し市場に出して行く事が必要です。その為にはチャレンジ目標や期間を明確に定めそこに向けての技術者全員の意識の統一や、多くの部門にわたる技術者の組合せや協力が必要です。

自分の担当範囲の研究開発にとじこもることなく常に関連部門、周辺技術に関心を持ち、取り込み乍ら目標達成に集中する、その事が開発のスピードを早め、又コスト低限にもつながることだと思います。

ボーダレス時代の技術開発は、各分野の技術のつながりと組合せによって完成されます、あたかもいくつもの色が組合せられて一枚の絵になり、美しい音の組合せがすばらしい音楽になるように。

各々の要素技術の組合せをタイムリーに商品イメージに結びつける事により今後とも素晴らしい商品を生み出される事を期待します。